である。LNGは熱量が高い上、石油などと違って亜硫酸ガス公害の心配がなく、またガス化する際のLNG冷熱を液体酸素などの製造に利用できる、といういろいろなメリットがある。

ドーム社ではブリティッシュ・コロンビア州プリンス・ルパートの近くのシンプソン湾に巨大な液化プラントを建設する予定で、パイプラインを含めた建設費は総額二十億ドルにのぼるものとみられている。

なお、国家エネルギー委員会では、残りの五年分についても、前向きに考慮する意向を見せている。

委員会はこのほか、米国向けに九・八エクサジュールの天然ガス輸出を認可した。日米両方を合わせた輸出額は、七百億ドルにのぼる見込みで、天然ガス生産施設、パイプライン、液化プラントなどの建設による経済効果を含めると、カナダ経済にもたらす利益はきわめて大きいものと予想される。

四十年ぶりで再会
カナダ大使館職員

四十年も前にビルマの日本語学校につとめ、いまはカナダ政府の職員として来日しているニュン・ラングさんが、このほど当時の日本人教師を探し当て、長年の夢を果たした。

ラングさんは、一九四〇年頃、ビルマの日本軍から日本語教育を受け、ビルマ南部のヘンザダというところに日本語学校が設置されたとき、そこの助手となった。十七歳か十八歳のときである。

「そのとき私を雇ってくれたのが垣本先生。そのほかに大津先生と川波先生がおられました。校長の川波先生はとても厳しく、またみんなから尊敬されていました」

ラングさん

やがて戦況の悪化とともに、先生方は戦線へ送られ、学校も閉鎖された。

ラングさんは、その後、ラングーン大学を卒業、英国で保険の仕事などをしたあと、二十年前にカナダに移住する。その間、先生方のことは脳裏を離れなかった。

ラングさんは、昨年、志願してカナダ政府の在日関税局に勤務する。ようやく東京での生活に慣れた頃、ラングさんは同僚に相談した。そして読売新聞がラングさんのことを紹介してくれた。

早速、当時、ビルマで参謀本部文教班長をしていたという人から川波校長の後任だった沢井先生を知っている、との連絡があった。やがて十二月もおしつまった頃、東京に住む沢井先生が、関税局にラングさんを訪ねてくれた。そしてその沢井先生から、大津、垣本先生はビルマから撤退するときに行方不明になったこと、川波先生は健在であるということを知った。

そして、ついに、川波先生が京都の宇治市に住んでいることが分かった。早速、手紙を書くと、川波先生から「あなたのことはよく覚えている。ぜひ会いたい」との返事がきた。高齢の上、病床にあるということで、手紙は子息が代筆していた。

ラングさんはいま、先生の健康を気づかいながら、「厳しかった校長先生」との再会を心待ちにしている。

「カナダの法律」でシンポジウム
中京大学と在日カナダ商議所

カナダの法律に関する会議とシンポジウムが、四月に相次いで開催される。

そのひとつは、四月二十三、二十四の両日、中京大学八事校舎国際会議棟で開かれる「日加法律家会議」。同大学法学部がブリティッシュ・コロンビア大学法学部と提携して開催するこの会議では、税法、財産法、環境影響評価、天然資源開発計画の法的規制、国際法領域における主導権、新憲法など、カナダのさまざまな法的側面に関する講演および「カナダ法と日本」というシンポジウムが予定されている。

また四月二十六、二十七の二日間、在日カナダ商業会議所主催のシンポジウム「カナダにおけるビジネスの実際と対応」が、経団連会館十階で開催される。中京大学の招待で来日するブリティッシュ・コロンビア大学の教授など、カナダの法律や税務の専門家が、日本のビジネスマンを対象に、外国投資審査法、関税および反ダンピング法、税金制度などについて講演するほか、セミナーが予定されている。

すわ沈没！

まさに沈没寸前のように見えるこの船は、実は積み荷の原木を降ろしているところ。大手木材会社マクミラン・ブローデルが所有するこの「ハイダ・ブレイブ号」は、伐採地からブリティッシュ・コロンビア州沿岸にある同社の製材工場に運んできた原木を、このように船体を約三十度も傾けて水中に降ろす、いわば〝ダンプ船〟である。ハイダ・ブレイブ号は、九千トン以上の原木を積むことができる。

石狩町とキャンベルリバー
サケが縁で姉妹都市に

サケで栄えた石狩町と、サーモン釣りなどのスポーツ・フィッシングの本場キャンベルリバー（ブリティッシュ・コロンビア州）が、このほど姉妹都市となった。

両市の交流は、一昨年五月、カナダ太平洋サケ協議会専務理事のジム・マレー氏とキャンベルリバー市商工会議所会頭のウォーレン・ピーターソン氏が、同市市長の親書を携えて石狩町を訪問したのがきっかけで、急速に深まった。そして今年一月末、オストラー市長を団長とする親善訪問団が石狩町を訪れ、姉妹提携の仮調印をすませた。本調印は、キャンベルリバーで行われる。

イベント案内

○ベートーベンの世界的演奏家として知られるアントン・クエルティのピアノ・リサイタルが、次の各地で開催される。

四月二十五日　東京・石橋メモリアル・ホール（上野学園内）

四月二十六日　青森・青森市民文化ホール。

四月二十七日　東京国立市・国立楽器。

曲目　バッハ「パルティータ第一番」、メンデルスゾーン「厳格な変奏曲」、ベートーベン「ソナタ第一四番（月光）」、ブラームス「四つの小品」、ショパン「ソナタ第三番」。

○第六回日加経済人会議が、五月十六日から十八日まで、モントリオールで開かれる。今回から工業製品、農林・水産・食品、エネルギー、鉱産物の四分科会に、観光分科会が新たに設置される。